

- ・耳介のかゆみ：掻き過ぎて出血したり，左耳に突き刺すような痛みが脳まで広がることがあります。
- ・結合組織病

MODALITY

- ▶ 外気，夜，横になったときに咳をすること，運動，コーヒー，包まれることなど
- ◀ 触られること，午後3時～6時，声を出すこと（話す，歌うなど），寒く湿った気候，乗り物に乗る，暖かい部屋に入ること，太陽の下，ストレス，仰向けに寝る，座る，かがむなど

RELATIONS

- ・ Antidotes : Mercurius, Pulsatilla, Zincum metal-

licum, Palladium, Stannum

- ・ Antidoted by : Mercurius, Pulsatilla
- ・ Follows well : Aluminium, Platinum
- ・ Followed well by : Calcrea carbonica, Pulsatilla, Sepia

●主な銀のレメディ

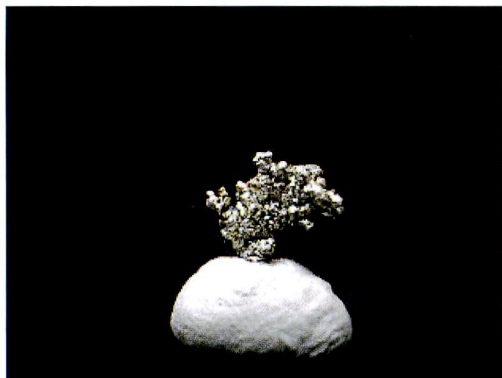
Argentum metallicum, Argentum aceticum, Argentum arsenicum, Argentum bromatum, Argentum carbonicum, Argentum cyanatum, Argentum fluoratum, Argentum iodatum, Argentum muriaticum ammoniatum, Argentum muriaticum, Argentum nitricum, Argentum oxydatum, Argentum phosphoricum, Argentum sulphuricum

Argentum nitricum 硝酸銀 AgNO_3 [予期不安と衝動的な行動]

Silver nitrate- AgNO_3

BACK GROUND

Argentum nitricumは，無色，無臭の板状結晶の硝酸銀（ AgNO_3 ）で，比重4.352，転移点159.6℃，融点212℃，分解点444℃，強力な酸化剤であり，また腐食性があります。水にきわめて溶けやすい性質もっています。その水溶液は中性を示し，有機物があると銀鏡を生じます。光に当たると分解します。一般的にはSilver nitrate, hellstone, devil's stone, lunar causticなどと呼ばれています。



硝酸銀を含む原石は，針銀鉱（アカンサイト）です。輝銀鉱（アルゲンタイト）と同質異像の鉱物で，173℃以上で生成したものをアルゲンタイト，それ以

下だとアカンサイトとなります。大変小さな結晶で，結晶形状もややいびつです。

硝酸銀の主な用途としては，銀塩の製造原料，写真感光剤，鏡，分析試薬，電気通信機器用，魔法ビン用，医薬の原料などとして幅広く利用されています。

硝酸銀の毒性として，皮膚や粘膜面への腐食性と刺激性があります。触れるとヤケド状態になります。

医療の現場では，その抗菌作用と腐食作用を利用して外用薬として皮膚疾患やいぼの治療，膀胱内点滴注入として，膿尿性の膀胱炎や間質性膀胱炎などの治療に用いられてきました。近年では，エドガー・ケイシーによって考案されたWet Cell Applianceに，この硝酸銀を使った治療法があり，現代でも数多く使用され非常に役立っています。エドガー・ケイシーは，この装置をパーキンソン病，頭痛，麻痺，脳性麻痺，脳梗塞後の麻痺，筋萎縮性側索硬化症などに適用することを指示し，多くの症例を治癒に導きました。

FIRST PROVING

ハーネマン，後年J.O.Mullerによる追試（1845）

MIND

Argentum nitricumタイプでは，精神的に衰弱していて，心のバランスがくずれています。そのため，

予期不安と衝動的な行動を引き起こすのが特徴です。

もともとは外交的で明るい性格で、知的で理解力があります。忙しく仕事をこなします。すべてが順調なときには感情的なバランスがよく、人生を楽しく楽しく過ごしたいと考えています。試練や困難を嫌います。身体的、精神的な過剰行動により、エネルギーの使いすぎや、何かに失敗したり困難な状況に陥ると、自信を喪失して心身のバランスが不安定になっていきます。栄養学的にも、甘いものを過剰に摂る人には、起こりがちな徴候です。そのため、このタイプの人甘いものを多く食べることによって、心身のバランスの不安定さが増強されます。とくに感情的なバランスが不安定になり、泣いたり、笑ったり、怒ったりと衝動的になるのを抑えられません。症状が進んだケースでは、理性で感情と衝動が制御できずに振りまわされてしまいます。高い所から飛び降りようとしたり、誰かを傷つけようとしたり、上司に物を投げつけようとするなど急に馬鹿げた行動を衝動的に取ろうとします。また、何かするときでも、とにかく急いでやろうとします。

このタイプの特徴の1つである予期不安では、事前に決められたことに対してあれこれ不安がよぎり、汗をかいたり、ふるえたり、放屁をしたり、下痢をしてしまいます。たいしたことでもなくても、発作的に周りが見えなくなるほどに考え込んでしまい、不安になります。不安を取り除こうとするたびに、妄想は膨らみ、さらにパニック状態になります。1人でいるとこの傾向は強まるので、誰か傍にいてほしいと願います。とくに夜です。

自分の死や病気（心臓病や癌、脳卒中といった成人3大病）について恐怖感をもっています。この恐怖は、Arsenicum album, Nitricum acidum, Agaricus, Kali arsenicumなどのように不安を常に感じ続けることはなく、しばらくすると恐怖心は消え去ります。とくに、人といっしょにいと恐怖心が消えることが多いようです。

非現実的な妄想からくる恐怖が強いので、高所恐怖症、閉所恐怖症なども強い傾向があります。高いビルの上にいれば、飛び降りてしまう恐怖、下にいればビルが自分に崩れ落ちてくる恐怖などと、何でも妄想のネタにしてしまいます。高所と閉所を合体させたのが飛行機恐怖症です。ほかにも橋を渡ること、ビルの中から窓を開けること、ステージに上がることなど、たくさんの恐怖をもっています。

この状態が長い年月にわたって続くと、Opiumのように激しい感情のピークの後には、感情が鈍麻、麻痺してしまうこともあります。



Argentum nitricumタイプは、甘い物や塩辛い物、アイスクリームやチーズなどを好んで食べますが、甘い物を食べた後に下痢をすることがあります。新生児では、授乳する母親が甘い物を食べても、下痢を引き起こすことがあります。体は温かいです。一般的に症状は温めると悪化する傾向があります。いつでも新鮮な空気を欲しがります。

AFFINITY

Argentum nitricumは、主に精神、神経系（とくに脳脊髄神経、腹部）、粘膜（胃、腸、眼、喉、尿道）、骨膜、皮膚などに親和性をもっています。

CLINICAL APPLICATIONS

■精神、神経系

- ・不安症、予期不安：とくに上記のような不安に対して
- ・めまい：めまいから失神しそうになることがあります。
- ・頭痛：痛みはゆっくりと始まり、急に消退します。
- ・ふるえ、てんかん発作、チック
- ・麻痺：とくに肢。はじめに無力で重い感じがして、ゆっくりと麻痺にいたります。
- ・書痙
- ・多発性硬化症
- ・衝動的な言動
- ・高所恐怖症、閉所恐怖症
- ・協調運動障害
- ・片側麻痺
- ・小脳性運動失調症
- ・頭部外傷後の神経症

■消化器系

- ・予期不安による下痢：水様性で、緑色がかった粘液便で、ガスも出ます。飲水や甘い物を食べると悪化します。
- ・胃潰瘍：頻回におくびやガスが出ます。甘い物を欲

しがありますが、食べると胃腸の症状を悪化させる要因にもなります。

- ・出血性大腸炎：便に粘液が混ざります。ときに出血が混じることがあります。精神的なストレスが大きく関与します。
- ・過敏性腸症候群：便秘と腸内ガス、下痢が交互にすることがあります。そのためにガスやおくびもよく出ます。鼓腸により、胃が張る感覚になり、腹部左上部にズキズキする痛みを感じることもあります。
- ・腹部膨満

■その他

- ・結膜炎：眼は充血し、目やにがたくさん出ます。冷湿布で改善します。
- ・激しい動悸：心臓が飛び出しそうな感覚になります。右下に寝ると悪化します。
- ・インポテンス：心配症で悪化します。
- ・右精巣、右卵巣の痛み
- ・喉の哽声：とくに声をよく使う場合に起きます。粘着質の痰がからむことがあります。
- ・咽頭炎
- ・喉の乳頭腫やいぼ
- ・慢性疲労症候群：定期的に激しい疲れを感じます。

MODALITY

- 新鮮な空気、涼しい空気、外気、寒さ、冷水浴、患部の強い圧迫、運動、体を二つ折りにする
- 感情的になること、心配、恐怖、不安、予期不安、ストレス、温かさ、暑さ、冷たい食べ物、アイスクリーム、甘い食べ物、左側、締め切った狭い部屋、右下に寝ること、下を見下ろすこと、生理前と生理中、乗り物に乗ることなど

RELATIONS

- ・ Antidoted by : Ammonium causticum, Natrum muriaticum, Arsenicum album, 牛乳
- ・ Antidote to : Pulsatilla, Calcarea carbonica, Sepia, Lycopodium, Silica, Rhus toxicodendron, Phosphorus, Sulphur
- ・ Incompatible : Coffea (神経性の頭痛を悪化させます)
- ・ Follows well : Bryonia, Spigelia Spongia, Cauticum, Veratrum album
- ・ Is followed well by : Lycopodium

Arnica montana アルニカモンタナ [打撲、外傷]

Arnica montana L.

Doronicum oppositifolium Lam., Doronicum arnica Desf.

BACK GROUND

Arnica montana は、ヨーロッパ中部から北部の高山帯やシベリア、アメリカ北西部、カナダなどの山地や牧草地などの酸性泥炭質土壤に自生する、キク科ウサギギク属の多年性植物です。高さは20～50cmで、葉は軟らかくて細かい綿毛に覆われており、橙黄色の花を7月に咲かせます。その形状は、日本産高山植物のウサギギクによく似ています。一般的には、アルニカと呼ばれていますが、ほかにも Leopard's bane, Wolf's bane, Mountain tobacco, Sneezewort などとも呼ばれます。

Arnica は、この植物の葉の肌触りの感触に由来する、ギリシア語の anakis 子羊の毛皮から来ています。種小名の montana は、この植物の生息する山岳地帯に由来しています。

ヨーロッパでは古くから、花と根茎を外傷の万能薬として使用しています。この植物の薬効について最初に記録したのは、ドイツの修道女聖ヒルデガルドです。この植物には、利尿作用、解熱作用、消炎作用、抗菌作用、免疫賦活作用、鎮痛作用、血行促進作用などが認められるため、さまざまな外傷、打撲傷、挫傷、出血、神経痛などに使用されています。また、赤痢やマラリアの治療薬としても処方されていました。

外用薬としての効果はとくに優れていて、外傷や打撲傷、捻挫、皮膚炎、筋肉痛や関節炎、リウマチ、足の腫れと痛みにも効果があります。ケガの後遺症にも使用されています。昔から登山家の間では、登山中この植物の葉を噛んで、筋肉痛や転んでケガをしたときなどの治癒を早める薬草として知られています。しかしながら、この植物の湿布は頻回に付け過ぎると、皮膚